

小平市一般廃棄物処理基本計画 副題（基本理念）のフレーズ案

No.	フレーズ案
1	噂を広めよう！「小平は住みやすい」
2	ふるさととは小平です！
3	ごみ減量始めて20年。まだまだ続くどこまでも
4	住む人増えて、体重減らして ごみ減って
5	帰りたい街 小平はエコの街
6	愛と勇気で ごみ減量
7	そこに ごみがある限り・・・
8	世の中 ごみが多くて 疲れるねえ？
9	ごみ減量は教育で
10	リサイクル めぐりめぐって 地球にやさしく あなたにやさしく
11	循環型社会をめざして
12	循環型社会に向けて
13	資源を（に）まわして 地球にやさしく
14	資源をいかせ こつこつ小平
15	子どもにも「もったいない」が根づく町 （裏面参照）

※ 3名の委員からフレーズをお寄せいただきました。いただいたフレーズを原文のまま掲載しています。

※ No.15につきましては、委員から以下の説明をいただいています。

足るを知り「もったいない」が根づく町 について

↓

- ① ごみ調査で、未使用の食品が多数出たり、廃棄物がへらないという現状がある。
- ② “足るを知る”のは誰か。市民一人一人だろうか。(市と市民、事業者の協働でなくなったのか)
- ③ “足るを知れ”と言われているようでちとキツイ。
-----▶ この言葉は国際的にも市民権を得ているので
よろしいと思われませんが・・・

一般廃棄物減量を目指しているので「循環型社会を作ればよい」というものではないと
いうことを学ばせていただきましたので

子どもにも「もったいない」が根づく町 はどうでしょうか。

子どもに根づくということは、大人には勿論根づいているということで市民一人ひとりに「もったいない」の意識があるということになる、こういう社会を目指しているという意味ですが・・・

※ このほか、以下のご意見をいただきました。

計画の基本理念については、「足るを知り」と云うフレーズは理論性に欠け、本編の第2章の中で説明展開する事が難しくなるのでは、と考えます。しかしながら、やはり「もったいない」は現状、様々な自治体に使用され、やや耳につきすぎた恐れもありますが、今、この言葉にかわる訴求力のある言葉は見当たらない事も事実です。「足るを知り」を外す形か、又はそれに代わるフレーズに差し替えたら如何でしょうか？

前回（平成20年）のごみ処理基本計画（改訂）の計画理念の中で「市民や事業者にとっても～～ 進んで取り組むことが重要である」と、主張されておりますが、今回は更にこれを発展させる内容の基本理念であることが望ましい、と思われまます。

ごみの減量に関して、一番、効果的なのは市民レベルでのモチベーションの高さ・意識の高さであることは論をまたない、と思われまます、その為に必要な事は、教育と広報ではないでしょうか。

教育に関しては教育委員会との共同作業であります、広報については環境部が、市が展開できる要素である、と考えます。広報によってごみ問題への関心を喚起し、ごみ減量意識を浸透させ、ごみ処理方法を徹底させていく事が大切だと思われまます。